



## 青空に舞つて色とりどりの熱気球

### 瀬戸内バルーンフェスティバル

邑久町豆田地先で11月23～25日の3日間、「瀬戸内バルーンフェスティバル2007」が開催されました。

今年は、全国から30機の熱気球がエントリ。瀬戸内の青空に色とりどりの熱気球が浮かび、訪れた観客の目を楽しませていました。

また、会場では、一般の人が熱気球に乗れる係留体験乗車やアマチュアバンド演奏などが行われ、大勢の人でにぎわいました。

そして、23日の午後5時半からは待ちに待ったバルーンイリュージョン！「バーナーオン！」の掛け声とともに一斉にバーナーが焚かれ、その幻想的な光景は詰め掛けた観客を魅了。また、名刀太鼓の皆さんの演奏に合わせて、バーナーが焚かれる場面もあり、その見応えある光のショーに観客から惜しみない拍手が送られていました。

幻想的な光で観客を魅了したバルーンイリュージョン



次々と飛び立つ熱気球に歓声が上がっていました



係留体験乗車には、大行列ができました



空中浮遊を楽しむ来場者



ステージでは、バンド演奏などが行われました



グライダーに乗って記念撮影

## 「1リットルの涙」から伝わる生きる姿勢

### 人権啓発フェスティバル

12月2日、人権啓発フェスティバルとして「1リットルの涙」の映画上映と講演会が行われ、会場に入りきれないほど大勢の皆さんが、ゆめトピア長船を訪れました。

「1リットルの涙」は、難病に侵された少女、木藤亜也さんの闘病生活を書き綴った日記を元に、映画化されました。講演会では、病氣と闘いながら、懸命に生きた亜也さんの生きる姿勢を、母の木藤潮香さんが、伝えていました。

「体が不自由なことは、不幸ではない。不自由なだけ」と前向きな気持ちで生きた亜也さん。それを支える家族や周囲の人々の愛情。来場した皆さんは、命の大切さや親子の絆について考える、良い機会となりました。



木藤亜也さんについて語る母潮香さん

## 良好な景観づくりへ向けて

### シンポジウム「瀬戸内市の景観」

邑久町公民館で11月25日、中・高校生の考えるシンポジウム「瀬戸内市の景観」(牛窓ロータリークラブ創立20周年記念事業)が開催されました。

神田昌幸さん(国土交通省)の基調講演の後に行われたパネルディスカッションでは、市内3中学校・邑久高校・岡山学芸館高校の生徒7人が、「牛窓のどかな町並みを残したい」「景観を守るには、一人一人が意識してルールを守っていくことが必要」と、それぞれの景観に対する意見を発表しました。「若い人たちは市内各地を歩いて、素晴らしい自然・文化・歴史を体感し、愛情をもって今後の景観について考えてほしい」と、パネラーの立岡脩二市長。

参加者の皆さんは、中・高校生やパネラーの意見に熱心に耳を傾け、景観について理解を深めていました。



逃げ遅れ者を救助する救急隊

## 迅速で的確な行動を

### 瀬戸内市民病院消防合同訓練

秋の火災予防運動(11月9～15日)期間中の14日、瀬戸内市民病院で市民病院と市消防本部の合同訓練が行われました。

病院の病室から出火し、初期消火の失敗で延焼拡大、逃げ遅れ者を救助するとの想定で実施。

約40人の参加者は、火災通報、避難誘導、救急救助、放水訓練など、連携の取れた訓練を真剣に行っていました。

もしもの時の迅速・的確な行動が、被害を最小限にとどめます。皆さん一人一人が、日ごろから防災意識を持ちましょう。



中・高校生、パネラー、それぞれの視点で意見が発表されました